

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：12401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2019

課題番号：18K12834

研究課題名(和文) Non-standard(Dependent self-employed) Work in Professional Organizations and Workplace Conflict

研究課題名(英文) Non-standard(Dependent self-employed) Work in Professional Organizations and Workplace Conflict

研究代表者

Noh SungChul (Noh, SungChul)

埼玉大学・研究機構・助教

研究者番号：90758492

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、増加している専門職種非正規職労働者が正規職労働者たちのストライキに見せた態度と行動を、階級的連帯と職種の連帯という二つの概念の関係づけを通じて理論化しようと試みた。このため、韓国の公共放送2社で働く正規職ジャーナリストらが08年以降、大小の抵抗から12年、言論大ストを行う過程を分析範囲とし、両非正規職制作スタッフである独立報道と時事教養作家らが正規職ストに示した反応を分析した。分析結果は、特殊雇用の制作人材が職種に関係なく、正規職メディアに対して階級的な異質感を感じていることを示した。一方、職種の価値共有に基づく正規職に対する認識は、二つの特殊雇用職種集団の間で異なっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織の専門性と創意性を高めるとともに、柔軟性を確保するためフリーランス契約を好む企業数が増加している。正規職労働者とフリーランス労働者との垂直上下関係は、組織内の葛藤を増加させ、効果的な協業を阻害する可能性が高い。労働者が契約形態は違っても、職種の連帯に基づいた水平的協業ができる制度的環境づくりが重要だ。

研究成果の概要(英文)：This project examined the case of a joint strike at two public broadcasters in Korea in 2012. Tracing the process since 2008 by which a conservative government has tried to control the press and regular journalists have collectively resisted against it, I put my analytical focus on two major groups of non-regular broadcast professionals: independent producers and writers. Independent producers, who had developed a strong class-based rationality in response to the coercive input-output control, showed cynicism about regular journalists' strike pointing out their hypocrisy and contradiction. In contrast, freelance writers accommodated and joined the strike by regular workers in the spirit of solidarity based on occupational rationality which had developed from normative, process control.

研究分野：雇用関係、人的資源管理

キーワード：作業場葛藤 非正規雇用 ストライキ 労働者連帯 作業場意見表明

1. 研究開始当初の背景

過去 20~30 年間、事業主の非正規職労働者の雇用は増加を続けてきた。このため、非正規雇用が労働者の心理や行動に及ぼす影響については、多くの先行研究があった。しかし、非正規雇用によって組織内に起こりうる葛藤の様相と、非正規雇用労働者が作業場で声を出せる経路に関する研究は、依然として不足しているのが現状だ。

2. 研究の目的

先行研究者らが残した空白を埋めるための本研究は、次の三つの研究質問について調査した。

- A. 非正規雇用労働者(特にフリーランス労働者)はどのように正規雇用労働者との関係を形成するのか。

先行研究はパートタイム、短期間臨時職、派遣勤務など多様な形態の非正規職契約の形態にスポットライトを当てたが、急速に増加している特殊雇用労働者(または従属的自営業者)に関する研究は多くなかった。このような新しいタイプの労働者は、公式にはフリーランスで契約をして仕事をするため、労働者としての法的保護を受けることができず、正規職労働者とも非公式な関係を結ぶ。本研究は、そのような正規職と特殊雇用労働者間の関係が業務成果などにどのような影響を及ぼすのかを考えることを目的とした。

- B. 従属的なフリーランスのタイプに属する非正規労働者は、自分たちの労働条件を改善するためにどのように声を出し、自らを組織化するのか。

従属的自営業者という契約形態は従属的勤労契約と独立的な商業契約の間の中間的な特性を持っている。本研究は、このような契約形態の特性が労働者が作業場で個人レベルのまたは集団レベルの声を出すのにどのような影響を及ぼすのか分析することを目標とした。

- C. 正規職労働者は非正規職労働者の個人的または集団的声にどう反応するのか。

フリーランスの労働者が組織にもたらす専門性と多様な意見は、正規職労働者の生産性と学習を高めることができる。逆に、専門性は正規労働者の地位と安全性に脅威となる可能性がある。後者の場合、両集団の労働者の間に対立が生じ、組織の成果にも否定的な影響を及ぼすことになる。本研究は両集団の労働者が効果的に協業できる条件を探索することを目指す。

3. 研究の方法

2018 年には放送産業の様々な職種に属する 60 人余りのフリーランス労働者と面接調査を実施した。2019 年には韓国の公共放送局の一つである TBS で大規模なアンケート調査を実施した。TBS はフリーランスの労働者の比率が最も高い放送局であるため、本研究の目標を達成するための理想的な研究ルートを提供した。フリーランスの労働者だけでなく、正規職の労働者もアンケートに含めることで、二つの集団の間のお互いの見方を把握しようとした。

4. 研究成果

本研究は新しい非正規雇用形態である従属的自営労働を調べたという点で非正規雇用に対する先行研究と差別化する。特に、最近社会的な話題となっているプラットフォーム労働者も、その大半を従属的自営労働者に分類できるという点で、プラットフォーム労働の属性を理解する上でも寄与する。

本研究結果を踏まえ、海外の学術誌に複数の論文を掲載することができた。本研究の成果を国際学会を通じて共有することにより、東アジアの非正規雇用研究者ネットワークの一員となる機会を得ることができた。特に 2018 秋には韓国の研究機関と連携し、埼玉大学で非正規雇用をテーマにした学術大会を組織した。その後も日本、韓国、中国で現れている非正規職雇用の共通点

と相違点を外国の研究者らと議論し続けている。

このような脈絡で、今後の研究方向は非正規職労働に対する国際比較研究として企画されている。特に、技術の発展によりプラットフォーム労働が広がり、労働に対する概念を変えつつある中で、各国ごとに異なる制度的要因によってプラットフォーム労働の様相がどのように現れているのか研究することが必要であろう。

また、COVID-19 事態により非正規雇用労働者の保護が必要だという声が高まる中、非正規雇用労働者の安全網を拡充するために展開している各国の政策を比較する研究が必要な時期である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件／うち国際共著 9件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Jung, H., Lee, J., Cho, H. & Noh, S. (2019)	4. 巻 25(3)
2. 論文標題 The Divergence in the Forms of Collective Representation and the Role of Organizing Intermediaries	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Labor Studies	6. 最初と最後の頁 41-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noh, S.	4. 巻 25(3)
2. 論文標題 The Reproduction of Low-skill Regime in the High-tech Industry: A Case of System Integration (SI) Industry in Korea	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Labor Studies	6. 最初と最後の頁 371-420
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noh, S.	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 The Changing Face of Work Precarity: Dependent self-employed professionals and collective response to work precarity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Industrial Relations	6. 最初と最後の頁 55-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jang, H. & Noh, S.	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 Precarious Creative Workers and Their Identities: A Case of Employment Stabilization of Scriptwriters in a Local Broadcasting Station	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Labor Studies	6. 最初と最後の頁 253-298
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noh, S.	4. 巻 29
2. 論文標題 The Changing Face of Work Precarity: Dependent self-employed professionals and collective response to work precarity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Industrial Relations	6. 最初と最後の頁 55-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jang, H. & Noh, S	4. 巻 25
2. 論文標題 Precarious Creative Workers and Their Identities: A Case of Employment Stabilization of Scriptwriters in a Local Broadcasting Station	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Korean Journal of Labor Studies	6. 最初と最後の頁 253-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noh, S., Jung, H., & Lee, C	4. 巻 24
2. 論文標題 A New Experiment or Institutional Subsumption? The Outcomes and Tasks of Contingent Worker Center for Korean Labor Movement	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Korean Journal of Labor Studies	6. 最初と最後の頁 137-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jung, H., Noh, S. & Kim, J.	4. 巻 18
2. 論文標題 The Process of Direct Employment of Agency Workers in Public Sector and its Performance Implication: Case Study of 120-Dasan Call Center in Seoul, South Korea	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Labor Policy Review	6. 最初と最後の頁 107-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Noh, S. & Kim, I.	4. 巻 26
2. 論文標題 Intra-Organizational Political Process and Organizational Responses to Institutional Pressure in Pluralistic Organizations: Dilemmas and Choices of Two Public Broadcasters in Korea	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Korean Journal of Management	6. 最初と最後の頁 83-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Chu, J. & Noh, S.
2. 発表標題 Weapons of mass attention direction: Competitive dynamics of the Korean popular music industry
3. 学会等名 35th EGOS Colloquium, Edinburgh, UK (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noh, S. & Yu, K. H.
2. 発表標題 Negotiating the crisis of meaning: Professional careers and the legitimation of commercial organizations
3. 学会等名 34th EGOS Colloquium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noh, S.
2. 発表標題 In the Era of Alternative Facts: Maintenance and Transformation of Professional Hierarchy in a News Organization
3. 学会等名 SASE 30th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----